

2025. 10 [NO. 2]

会誌 ふくおか



一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会

目 次

会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第 34 回福岡県医学検査学会を終えて・・・・・・・・	5
施設紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
福岡地区：国立病院機構 九州医療センター	
福岡地区：社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院	
筑後地区：一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院	
令和 6 年度 福臨技リーダー育成研修会に参加して・・・・・・・・	11
新入会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
福臨技新入会研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	17
福岡赤十字病院 甲斐 皓貴	
小倉記念病院 富田 菜央	
久留米大学病院 佐々木 菜央	
飯塚病院 松元 壯磨	
北九州地区新入会研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	21
産業医科大学病院 中武美乃里	
筑後地区新入会研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	22
古賀病院 2 1 石塚 海桜	
筑豊地区新入会研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	23
飯塚市立病院 田竈 明日香	
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
広報・情報管理部 大串 篤利	

会長挨拶

一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会
代表理事会長 大久保 文彦

会員の皆さんには、日頃より福岡県臨床衛生検査技師会の活動にご理解、ご協力いただき大変感謝申し上げます。

今年度の事業において、大きな変更点は、『会誌ふくおか』のデジタル化を進めることです。4月発行の定時総会議案書、7月発行の福岡県医学検査学会抄録集は既に印刷物として配布させていただきましたが、10月発行の学会報告、施設紹介、各研修会報告、3月発行の次年度事業計画、予算案などにつきましては、デジタルデータとしてPDFで配布させていただく予定です。令和8年度は、定時総会議案書のみ印刷物とし、順次デジタル化を進め、令和9年度には全てPDFとして配布予定です。

この事業の最大の目的は、印刷物の経費を削減し、必要な事業への予算化（精度管理事業の拡大、ホームページの再整備など）を進めることです。会員の皆様には、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

福臨技リーダー育成研修会（令和7年2月1日）でご提案いただいた企画からの福臨技事業への展開した事例は今までありません。

今回のテーマは「私が福岡県臨床衛生検査技師会の会長になったら」でプレゼンテーションと質疑を行い、以下の4つのご提案を頂きました。1) お悩み相談室作ってみた！

2) 県学会の全国演題数No.1、3) タスクシフトの実施率を30%に上げる、4) 施設間差をなくし、標準化を目指す。

私たちはワーキンググループを立ち上げ、福臨技事業への展開を準備中でございます。成功するためには、提案した方々と十分協議し、私たち執行部の柔軟な対応が必要です。

福岡県臨床衛生検査技師会は、韓国京畿道病理士会との交流事業について

福臨技は先輩方の努力により、韓国京畿道病理士会と長い間交流をもってきました。

今年度は、第34回福岡県医学検査学会（2025年7月27日）の際に交流事業を行い、韓国京畿道病理士会より7名の方をお迎えしました。両者間には協定書があり、『福岡県臨床衛生検査技師会と京畿道臨床病理士会間の交流を厚くし両国技師会の親善交流および検査技術の向上を図って、お互いの発展を追求することをその目的とする』としています。

今までは、主に福臨技の役員との交流が主体でありましたが、今回は『Afternoon Meeting』として、韓国京畿道病理士会と福岡県臨床衛生検査技師会の会員の情報交換を行いました。

今回は福臨技会員の中から通訳の大役を担っていただいた3名の方には、心から感謝申し上げます。



(韓国京畿道病理士会と福岡県臨床衛生検査技師会の協定式より)

最後に、会員の皆様のご意見を真摯に受け止め、確固たる信念のもと、福臨技事業を進めてまいります。どうぞ、会員の皆様からのご意見もよろしくお願い申し上げます。

第 34 回福岡県医学検査学会の報告

第 34 回 福岡県医学検査学会 学会長

福岡県臨床衛生検査技師会 会長

大久保 文彦

2025 年 7 月 27 日（日）に第 34 回福岡県医学検査学会を九州大学医学部百年講堂にて開催いたしました。学会当日も猛暑でありましたが、351 名（会員 279 名、賛助会員 27 名、学生 41 名、名誉会員 2 名、入会予定者 1 名、非会員 1 名）のご参加をいただき、盛会裏に終えることができました。ご参加いただきました会員の皆様、演者や座長の皆様、賛助会員、そして協賛企業の皆様に心より感謝申し上げます。

本学会のテーマを「臨床検査の施設認証と医療安全」として、医療 DX に取り組むための検査値の標準化や信頼性の確保の基盤構築となり、施設の大小に関係なく、多くの会員に参加できるシンポジウム 1『なぜ施設認証を目指すのか？』、シンポジウム 2『医療安全はどこまで実施する？』を行いました。一般演題 24 演題、文化講演では千葉しのぶ先生（NPO 法人霧島食育研究会 理事長）に「食べものにはドラマがある」～心を育む食と農～のご講演を賜りました。さらに文化講演と同時開催になりましたが、韓国京畿道病理士会 7 名の臨床検査技師の皆様を囲んで、福岡県臨床衛生検査技師会の会員の皆様との情報交換の場「Afternoon Meeting」を開催いたしました。今まで長年に渡って韓国京畿道病理士会との交流を行ってきましたが、会員の皆様との交情報交換は初めての試みでした。国京畿道病理士会との通訳として手を挙げていただいた、3 名の会員の方々には感謝しかありません。活発な意見交換、また企業展示も 12 ブースを設け、会員の皆様へ情報提供の場になったと思っております。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、ご指導・ご協力いただきました関係者各位、本会の開催・運営に快くご協賛いただきました賛助会員ならびに多数の学生ボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。



九州医療センターは福岡市中央区地行浜にある医療施設で、**1994**年に国立福岡中央病院と国立久留米病院の統合により開設されました。**2004**年に独立行政法人化を経て、現在の名称となっています。

国立病院機構は全国 **140**ヶ所の病院を運営しており、九州医療センターは其中でも九州グループを代表する大規模病院のひとつです。診療科は **42**科、病床数は **702**床を有し、救命救急センターや高度周産期医療を **24**時間体制で整備しています。また、エイズ治療・災害医療の九州ブロック拠点病院としての役割も担っています。

さらに、診療・臨床研究に加え教育研修にも力を入れており、医師のみでなく、看護師や各種メディカルスタッフの研修も充実しています。

当院の臨床検査部は常勤臨床検査技師 **37**名、非常勤臨床検査技師が **5**名の合計 **42**名で構成されています。検査部は生化学・免疫部門、血液・一般部門、輸血管理・緊急検査部門、細菌・遺伝子部門、病理・細胞診部門、超音波・生理部門に分かれており、このうち生化学・免疫部門、血液・一般部門、輸血管理・緊急検査部門の **3**部門が同一フロアに集約された検体検査室では **ISO15189**を取得し、国際基準に基づく高品質な検査サービスを提供しています。検査部全体でも継続的な改善を行いながら精度管理や安全性の向上に努めています。

また、多くの技師が資格を有しており、主に超音波検査士、細胞検査士、認定輸血検査技師、認定血液検査技師、認定一般検査技師、認定血管診療技師、認定病理検査技師、**NST** 専門療法士、遺伝分析科学認定士、緊急臨床検査士などがあり、多様な資格を持つメンバーが専門性を活かして業務にあたっています。



2025年**2**月には生化学・免疫部門で大部分の測定機器の機器更新を行い、**TAT**の短縮を図るとともに、新たな搬送システムの導入によって時間外業務における要員負担の軽減につながりました。

さらに、チーム医療の一環として、外来採血をはじめとして心臓カテーテル検査や**ICT**、**NST**、糖尿病教室などで他職種との連携をとっています。

当院周辺には福岡タワーやみずほ **PayPay** ドームがあり、特に野球のシーズンは賑わっています。博多や天神からもバス **1**本でアクセスできるので、機会があればぜひお立ち寄り下さい。



施設紹介：社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院

社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院
診療支援部 副部長 検査課 津田 昌和

青洲会グループの青洲は「華岡 青洲」の名を冠して設立されました。華岡青洲（はなおかせいしゅう）は麻酔薬「通仙散（つうせんさん）」を発明し、世界で初めての全身麻酔による乳癌摘出手術に成功した外科医として有名ですが、実は生涯を通して地域の方々のための医療を実践し続けた医師としてもよく知られた人物です。グループ創設者は、学生時代和歌山県を訪れた際、青洲の偉業に深く感銘し、自身も地域に求められる医療を実践するという決意で1984年に長崎県平戸で設立し、その後1993年に福岡青洲会病院を開院しました。その後、2011年に社会医療法人、2023年に地域医療支援病院の認定を受け現在に至ります。

※青洲の名称の使用にあたっては、華岡青洲の子孫であり札幌で小児科を開業されていた八代目花岡青洲医師より了承を得ております。



地域としては福岡県糟屋郡粕屋町に位置します。福岡市東区及び博多区に隣接し、糟屋郡7町（宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町）と古賀市を二次診療圏とする213床26診療科の中規模病院となっています。診療圏には約29万人の人口を抱え、急性期医療から在宅まで地域の病院・診療所の開放型病院として連携を図りながら医療・看護・介護を提供しています。



病院実績は、年間救急車約 5000 台、救急外来受診者約 9000 名を受け入れ、手術件数は 2000 件程になります。検査室は検体・輸血、病理・細胞診、細菌、生理の 4 つの部門で構成しており、ここ数年では細菌検査の院内化をはじめ、血小板凝集能検査、不規則抗体同定検査、結核菌 PCR 検査の院内化などを行い、医療の質の維持向上に努めています。

最近ではジェネラリストの見方が重要視される場面も見受けられます。当院では 10 年ほど前までは部門を分けておらず、すべての技師がジェネラリストを目指す方針であったため、逆行する形になりますが、臨床を考え、ニーズに応えながらスペシャリスト育成を始めた職場になります。その甲斐もあり、少しずつではありますが各種学会の在籍者の増加や認定資格者の増加、学会発表にトライする技師の増加など、良い方向に向かっていると感じています。

その他の特徴としては、ルーチン業務だけでなく、SOP 等の各種文書や点検・修理記録の作成管理、試薬管理、日報、申し送りなど多くの資料を電子化しました。検体検査関連、放射線、内視鏡、ME 機器の管理システムを部門共有しながら仕組みを作る事で、スマートな情報管理体制の構築に繋げる事が出来ました。

最後に、今年度の福岡県臨床衛生検査技師会のスローガンである『つなぐ』にちなんで、各施設の技師間のつながりが増え、気兼ねなく相談しあえる仲間が広く各地に増えていくことを願っております。

施設紹介：一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院

臨床検査科 倉重 康彦 藤井 広美 福江 道代

【朝倉市; Asakura City】

朝倉市は、旧石器時代より人の生活が営まれていたであろうとされる地域です。人口約5万人、2万2千世帯で、福岡県の中央部に位置しています。市内を貫く国道386号を境に、北側は古処山をはじめとする山々が連なり、南側は筑後川とその支流や堀川用水、山田堰などの灌漑用水が流れています。三連水車（1879年～）などでも知られるのどかな田園都市です。一方で、さまざまな工場や企業があり、夜の人口より昼の人口が多いとされています。豊かな自然は、博多万能ネギ、柿や梨といったフルーツ、全国でも希少な淡水ノリ「スイゼンジノリ」など、特産品があります。筑前の小京都と称される「秋月」や夏の風物詩「鵜飼」が有名な原鶴温泉など、多彩な観光資源も大きな魅力です。



（三連水車と秋月城跡黒門）

【朝倉医師会病院；Asakura Medical Association Hospital】

当院は、平成17年福岡県より県立消化器医療センター朝倉病院の移譲を受け甘木朝倉医師会立朝倉病院として開設しています。平成20年甘木朝倉医師会を朝倉医師会と改称し、朝倉の基幹病院として運営していた甘木朝倉医師会病院と甘木朝倉医師会立朝倉病院を統合し朝倉医師会病院として新築開設し現在に至りました。



（朝倉医師会病院全景）

当院がある朝倉医療圏は朝倉市を中心に朝倉郡（筑前町及び東峰村）の1市1町1村であり、人口約8万人で、この地域で当院は、2000(平成12)年に地域医療支援病院の認定を受けています。その他、災害拠点病院、へき地医療拠点病院となっています。病床数は、224床（HCU6床、一般病棟146床、地域包括ケア病棟52床、緩和ケア病棟20床）で、全職員数は、482名です（令和6年8月1日現在）。

【診療技術部臨床検査科；Clinical Laboratory Department of Medical Technology】

臨床検査科は、臨床検査技師19名（正職18名、パート1名）、看護師（パート）2名、事務職1名の22名で構成されます。20代6名 30代7名 40代5名 50代3名 60代1名です。部門は、検体検査、輸血、病理細胞、生理機能、超音波検査、採血に別れていますが、技師は、マルチタスクで業務に従事しています。夜間は、2交代制による1名勤務で対応し、救急車搬送患者および併設されている甘木朝倉休日急患センターの対応をしています。日本病院機能評価機構認定施設（G3.Ver1.1）、日本臨床衛生検査技師会品質保証施設認証、日本超音波検査学会精度認証を受審しています。認定資格は率先して挑戦、取得するように各々自己研鑽しています。学生の臨地実習は、少人数ですが毎年受入ており、臨地実習責任者は2名を配置しております。

臨床検査科の理念は、“我々は、患者さんの立場に立ち信頼される臨床検査を提供し、仕事を愉しむ人材育成に努めます”とし、“楽しむ”を使用せず、“愉しむ”をモットーに日々、チームワークを大切に運用しています。福岡県下における地理的な問題もあり、人材確保には、難渋しますが、医療職の全国平均離職率は、15%程度と言われる中、当検査科は、7年間で年平均4.8%程度であり、まずまずの安定した、雇用体制を確保できていると考えています。今後も、日々の業務を大切に丁寧に関わっていきたいと思います。



（臨地実習生と当院スタッフ）

令和6年度 福臨技リーダー育成研修会に参加して

久留米大学病院 牟田 誠矢

飯塚病院 手島 裕治

北九州総合病院 松本 諒介

筑後地区 久留米大学病院 牟田 誠矢

このたび、福岡県臨床衛生検査技師会主催のリーダー育成研修会に参加させていただきました。臨床検査技師として日々の業務に取り組む中で、地域や組織に対してどのように貢献できるかを改めて考えるきっかけとなりました。

午前中の講義では、臨床検査技師に求められる将来の役割や、日本臨床衛生検査技師会・各都道府県技師会の事業活動について学びました。業界全体の方向性を把握することができ、自身の立ち位置や今後の活動へのヒントを得ることができました。

午後からは、実際にMTS（目標管理）ステップ表を用いたグループワークを通じて、「自分が福臨技の会長だったら」というテーマに向き合いました。事前にグループ内でテーマに関する議論を行い、役割分担や方針を共有した上で当日に臨みました。その準備が実を結び、当日は「福岡県学会の演題数を全国No.1にする！」という目標を掲げ、具体的かつ実現可能な戦略をステップ表としてまとめることができました。この提案が評価され、最優秀賞を受賞できたことは、グループ全員の協力と熱意の賜物だと感じています。現在は提案の実現に向けたプロジェクトも始動しており、継続的な取り組みを通じて技師会の活性化に貢献したいと考えています。

今回の研修を通じて、リーダーとして必要な視点や行動力、そして何より周囲と協力しながら成果を生み出す力の重要性を実感しました。今後は学んだ内容を現場でも活かし、より積極的に周囲を巻き込みながら、組織全体の力を引き出せる存在を目指していきたいと思います。

最後に、このような貴重な学びと交流の機会を提供して下さった事務局・企画運営の皆様へ深く感謝申し上げます。今回の経験を今後の業務や技師会活動にしっかりと活かしてまいります。

筑豊地区 飯塚病院 手島 裕治

「私が福岡県臨床衛生検査技師会の会長になったら」というテーマの下、県技師会の発展と強化のための取り組みについて、グループ討論を行いました。グループでは、リーダー、書記、発表者などの役割を決め、MTS（Management by Target Setting）ステップ表という目標達成までのプロセスを視覚的に分かりやすく示すことができるツールを用いて、達成までの計画を立案しました。グループメンバーは4地区から集まった5名の初対面の方々でしたが、事務局のサポーターの方々のサポートもあり、活発な議論をすることができました。最終発表では、各グループから発展的なアイデアが提示され、大変刺激になりました。研修で得たことを活かし、県技師会の発展と強化に貢献できるよう努めてまいります。貴重な機会をいただき、事務局の皆様にお礼申し上げます。

北九州地区 北九州総合病院 松本 諒介

私は今回のニューリーダー育成研修会で、リーダーという役割をさせていただきました。

私はまだ、検査技師としての経験が浅くこういった研修会に不慣れでグループワークの司会進行や提案された意見をまとめることに苦勞しましたが、同じグループの皆様に助けていただき、最優秀賞を受賞することができました。

グループワークでリーダーという役割を経験し、皆様の発言を聞きグループワークの際、どのような発言をして進行していき、まとめた意見をどのように発表するのか学ぶことができました。

今回の研修で学んだことを活かしてリーダーシップを発揮できるように成長して、今後の業務や技師会活動でグループをまとめていきたいと感じました。

令和7年度 新入会員紹介

会員番号順

会員番号	氏名	施設
146288	星川 香	社会保険 田川病院
434843	門田 瑞穂	たけしたクリニック
444728	原 真弓	医療法人 原三信病院
706363	佐藤 佳奈	福岡地区自宅
742285	小池 美玖	公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院
742322	相馬 天晟	社会医療法人天神会 新古賀病院
742347	足立 裕志	地方独立行政法人 大牟田市立病院
742350	柳田 彩圭	地方独立行政法人 大牟田市立病院
742362	中吉 一翔	社会医療法人 北九州病院 北九州総合病院
742403	下大田 圭那	独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 門司メディカルセンター
742406	二宮 杏奈	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
742410	大庭 由唯	地方独立行政法人北九州市立病院機構 北九州市立医療センター
742417	河島 沙英	飯塚病院 中央検査部
742499	田中 椋太	公益財団法人健和会 大手町病院
742536	山下 瑞穂	社会医療法人天神会 新古賀クリニック
742681	青木 日香里	福岡地区自宅
742685	荘司 駿太郎	国家公務員共済組合連合会 千早病院
742687	秋本 瑞希	国立大学法人九州大学 九州大学病院 検査部
742688	末武 桜和	福岡大学病院 臨床検査部・輸血部
742693	佐々木 菜央	久留米大学病院 臨床検査部
742694	越智 心愛	国立大学法人九州大学 九州大学病院 検査部
742696	竹永 文香	福岡大学病院 臨床検査部・輸血部
742698	伊東 優里	久留米大学病院 臨床検査部
742700	岡本 菜槻	北九州市立八幡病院
743168	橋口 華音	一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院
743998	渡慶次 杏梨	社会医療法人天神会 新古賀病院
744515	原武 凜	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
744567	副島 瑞希	医療法人 二田哲博クリニック
744807	山本 真菜	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
744814	田尻 悠歩	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
744817	瀬戸口 芽衣	独立行政法人 国立病院機構福岡東医療センター
744837	酒井 直也	社会医療法人天神会 新古賀病院
744840	江口 亮	医療法人社団高邦会 福岡中央病院
744842	平川 晴菜	北九州地区自宅
744850	富田 菜央	北九州地区自宅

744862	河田 遥香	産業医科大学病院 臨床検査・輸血部
744864	宮嶋 優依子	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 柳川病院
744896	伊東 和奏	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
744924	松本 未来	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
744925	越智 レイナ	医療法人シーエムエス 杉循環器科内科病院
744956	松元 壯磨	飯塚病院 中央検査部
744978	横川 薫織	医療法人財団池友会 新行橋病院
744984	島添 優	北九州地区自宅
744990	山根 彩葵	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
744993	富高 沙風	福岡地区自宅
744994	副島 理奈	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
745047	妹尾 紗也香	筑後地区自宅
745157	遠藤 桃子	朝倉医師会病院
745163	盛山 あか凜	社会医療法人天神会 新古賀病院
745171	木下 聖也	医療法人社団高邦会 福岡山王病院
745213	池田 華奈	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
745297	石塚 海桜	社会医療法人天神会 古賀病院 2 1
745377	本田 望遥	福岡赤十字病院
745381	中武 美乃里	産業医科大学病院 臨床検査・輸血部
745390	草野 百合江	医療法人社団高邦会 高木病院 検査室
745413	庄山 日菜	社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院
746608	田中 菜央	医療法人福西会 福西会病院
746609	田竈 明日香	地域医療振興協会 飯塚市立病院
746633	佐藤 日菜	特定医療法人 東筑会 東筑病院
746641	東 実咲	独立行政法人 国立病院機構九州医療センター
746644	廣瀬 舞	久留米大学病院 臨床検査部
746649	國本 愛祐美	公益財団法人健和会 大手町病院
746650	中村 仁玲	北九州地区自宅
746656	瓜戸 春弥	福岡県済生会二日市病院
746662	入江 七彩華	筑後市立病院
746895	関 優果	社会医療法人 北九州病院 北九州総合病院
747274	入江 結衣	社会福祉法人 福岡県済生会福岡総合病院
747562	福富 潤哉	社会保険 直方病院
749864	日野 未百莉	福岡地区自宅
750155	蓮尾 祐子	福岡大学病院 臨床検査部・輸血部
750167	松本 明香里	福岡地区自宅
750198	河野 葉月	株式会社シー・アール・シー総合研究所
750206	甲斐 美咲	株式会社シー・アール・シー総合研究所
750214	金丸 琴美	株式会社シー・アール・シー総合研究所

750220	福山 沙織	福岡地区自宅
750231	松崎 理子	福岡赤十字病院
750241	桑原 和可菜	医療法人繁桜会 馬場病院
750323	吉村 勇志	株式会社みらい 九州ラボ
750324	奥田 凜	医療法人社団高邦会 福岡山王病院 予防医学センター
750360	岩野 海晟	北九州市立病院機構 北九州市立医療センター
750378	隈 恵美子	有限会社 久留米臨床検査センター
750401	相良 莉茉	医療法人社団 瑞月会 福岡みつき病院
750451	大部 優紀	福岡地区自宅
750506	身吉 ひかる	福岡地区自宅
750525	江藤 永遠	久留米大学病院 臨床検査部
750537	高木 映那	国立大学法人九州大学 九州大学病院 検査部
750552	大和田 雅一	福岡地区自宅
750561	河室 玲菜	株式会社シー・アール・シー総合研究所
750564	吉留 千咲	久留米大学病院 臨床検査部
750571	吉岡 凜々子	医療法人 原三信病院
750582	亀山 鈴夏	株式会社 臨床病態医学研究所
750644	岡田 貴裕	株式会社シー・アール・シー総合研究所
750652	前田 拓海	株式会社シー・アール・シー総合研究所
750661	上田 七星	北九州地区自宅
750700	竹内 夏那	医療法人健愛会 健愛記念病院
750708	牛島 美保	国際医療福祉大学福岡保健医療学部
750747	尋木 美結	筑後地区自宅
750753	小田原 愛弥	医療法人財団池友会 新行橋病院
750816	錦織 至暁	株式会社 臨床病態医学研究所
750834	甲斐 皓貴	福岡赤十字病院
750842	堀端 大樹	医療法人社団高邦会 福岡山王病院
750908	太田 麻尋	公益社団法人 日本海員掖済会 門司掖済会病院
750930	村田 向日葵	福岡地区自宅
751041	尾島 諒	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院
751083	梶原 和香菜	社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院
751086	江頭 拓	SRL Advanced Lab. FMA
751088	永田 裕理	筑豊地区自宅
751130	小島 涼	国立大学法人九州大学 九州大学病院 検査部
751155	木村 愛海	医療法人三井会 神代病院
751189	里川 綾那	株式会社L S I メディエンス 福岡南ラボラトリー
751208	桃坂 黎華	北九州地区自宅
751248	阿部 音和	北九州地区自宅
751307	坂本 知枝	株式会社L S I メディエンス 福岡南ラボラトリー

751334 成尾 憲士郎 医療法人輝栄会 福岡輝栄会病院

福岡赤十字病院 甲斐 皓貴

研修会なのでかしこまった雰囲気なのかと思っていましたが、笑いもあり、あまり緊張せずに話を聞くことが出来ました。

各地区で開かれている定期的な勉強会に積極的に参加していきたくて思いました。研修後、県技師会のHPを見てみるとたくさんの勉強会が開催されていることを初めて知りました。私は現在一般検査に従事しています。配属されてからは半年ほど経過して仕事にも少しずつですが慣れてきました。尿検査以外にも体腔液や関節液など幅広い知識が必要になりますので、自分の見識を広げるためにも認定一般検査の資格に今後挑戦していきたくて思いました。

懇親会では各地区の会長の皆様や関係者の方々と会話することが出来ました。仕事をしていると自分が勤めている病院以外の検査技師との交流がありません。タイミングにもよりますが、自施設での採用が自分一人で検査技師の同期の子がいないという人もいらっしゃると思います。福岡県技師会の大久保会長をはじめ各地区の地区長の皆様が共通して仰っていたことは人の輪を大事にして欲しいということです。今回のような研修会や各地区で開催されるイベントは他の病院の職場の雰囲気を知れるとともに同年代の人たちとも交流できる場だと思います。実際、私も一抹の不安を抱えての参加でしたが話の合う友達を見つけることが出来ました。特に入社して1年目の方たちは仕事に対する不安をまだ拭えていない人もいます。横のつながりがあればそういったことを共有し自分の仕事に還元することもできます。ぜひ一度参加して欲しいです。

小倉記念病院 富田 菜央

私は今年の4月に小倉記念病院に入職し、心エコー業務を担当しています。将来、幅広い知識と高度な技術を持った検査技師になり、より多くの患者さんの命を救いたいと考えており、先輩に教えて頂いたり本で調べたりして日々勉強に励んでいます。入職して約半年が経ち、大まかな業務内容を覚え、疾患やその疾患の検査方法について勉強をしており、今後どのように臨床検査技師としてのスキルを磨きキャリアを積んでいくか考えている状況の中、今回の研修会に参加させていただきました。

この研修会では、福岡県臨床衛生検査技師会でどのような取り組み・活動を行っているのか、また福岡・北九州・筑後・筑豊の各地区でそれぞれどのようなことを行っているのかを話していただき、今後、どのようにスキルアップしていくかを悩んでいた私にとって、とても貴重なお話ばかりでした。

福岡県技師会では、日々の研修会や県単位での研修会、また年一の医学検査学会が企画されており、発表の機会も多数設けられていることを知りました。学会や研修会は現地に足を運ばなければ参加できないと思っていましたが、近年ではWeb形式で行われており、とても参加しやすい環境が整っているということも知りました。7月に九州大学で行われた福岡県医学検査学会に参加した際には、各分野・各施設で行われている取り組みや、抱えている問題を知ることができました。多くの発表を聴き、質疑応答で活発に意見交換が行われている様子を見ることにより、発表のやり方や質疑応答での対応を学ぶことができ、学会に参加することの重要性を感じました。加えて、学会発表を通して自分の知識を深め欠如している知識を再認識し、知識と技術をブラッシュアップすることができるのではないかと思います。

今後、臨床検査技師としてスキルアップしていく上で、他施設の方々との交流も必要不可欠であると考えています。私が所属する北九州地区では、新人研修会・ボーリング大会・懇親会など様々な交流の場が設けられています。このような会に積極的に足を運び、交流を広めていくことで、近隣の施設の取り組みや状況を知り、より良い医療を提供できるようにしていきたいです。また、北九州地区に限らず福岡県全体でも今回のような交流会があり韓国など他国との交流ができる環境が整っていることを知ったので、交流会に積極的に参加し他の施設の取り組みや最新の情報・知見を学んでいきたいと考えました。

今回の新規入会者・入会予定者研修会を通して、勉強の仕方、知識の増やし方、学会や勉強会に参加することの重要性、他施設との交流の大切さなど、臨床検査技師として働いていく上でどのようにスキルを磨いていくべきかを知ることができました。個人での学びも大切ですが、学会発表を行い、学会や研修会・交流会に参加することで、広い知識・広い視野を持った検査技師となり、最新の情報を元にした質の高い検査結果を迅速に提供できる検査技師として医療現場で活躍していきたいです。

最後になりましたが、今回の研修会を企画・運営してくださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和7年8月23日に開催された「福岡県臨床衛生検査技師会新規入会者・入会予定者研修会」に参加いたしました。研修会を通して、福臨技の活動内容や臨床検査技師としての役割を改めて考える、大変貴重な機会となりました。

福臨技の取り組みには、研修会や精度管理、公益事業、学会活動などを通して、臨床検査技師の「職能意識」を高めるという重要な役割があることを学びました。入職して約五か月の私は、日々の業務に追われることが多いですが、「どんな技師になりたいのか」という軸を持ち、その実現に向けて必要な行動を考え、実行することの大切さを改めて実感しました。また、福臨技の一員であるという自覚を持ち、研修会や公益事業などに積極的に参加することで、現在の活動を未来につなげ、さらに発展させていく必要性も強く感じました。

学術事業部では、各地区で部門研修会が開催されており、自らの興味や関心に沿って専門知識を深められる環境が整っていることを知り、大きな魅力を感じました。実際に臨床で働く先輩方の経験をもとにしたお話は、教科書で学ぶものよりも具体的で身近に感じられます。さらに、コロナ禍を経て web 開催の研修会が増えたことで、所属分野以外の研修会にも気軽に参加することができ、自分の知識の幅を広げるうえで非常に有意義だと思いました。

私は筑後地区に属しており、地区内で研修会が多く開催されていると伺いました。近隣施設で働く先輩方から直接学べる機会はとても貴重であり、積極的に参加することで交流を深め、互いに成長できる関係を築きたいと考えています。将来、研修会を運営する立場になった際には、自らの経験をもとに得た知識や検査のコツなどを次世代へ伝えていきたいです。

私の目標は、「技術や判断力を磨き、正確な検査データを提供することで医療を支える臨床検査技師になること」です。その実現のために、まずは日々の学びを大切に、研修会や学会への参加を通じて専門性を高めていきたいと考えています。さらに、認定資格の取得にも挑戦し、スキルアップにつなげたいと思います。そして将来的には、培った知識や経験を後輩技師の育成や職場全体の技術向上へとつなげ、患者さんが安心して検査を受けられる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

今回の研修を通じて、若手技師の成長を支えてくださる多くの先輩方の存在を実感しました。その思いを胸に、今後も日々の業務に真摯に取り組んでまいります。最後になりましたが、このような学びの機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます

今回、福岡県臨床衛生臨床検査技師会に新たに入会した新人へ向けられた研修会が行われた。この研修会では、福臨技とはどのような団体で、どのような活動を行っているかについての話があった。この団体は、福岡、北九州、筑後、筑豊の4地区で様々な専門分野に応じた研修会、勉強会を開催し、臨床検査技師としての資質向上や各地域の会員の交流を図っている団体だということが分かった。こういった活動があることで、自身の知見をより深めることができ、さらに臨床検査技師を広めていきたい、学びたい、と活動している方々の中に身を置くことで、自分もより一層、技師として向上心を持つことができると考える。そのため、勉強会、研修会などには積極的に参加していき、そこで学んだことを、自身の業務で十分に生かせるように励んでいきたい。

次に、この研修を通して一つ考えたことがある。それは臨床検査技師という職業を多くの人に知ってもらうために福臨技の力を借りるということである。その理由として、臨床検査技師がどういう職業なのかそれほど浸透していなかったり、ドラマでも医師や看護師、放射線技師などを扱っているものはあるが、臨床検査技師については扱っていなかったりと世間にあまり知られていないと感じるからである。実際に、自分自身も臨床検査技師はどのような仕事をしているのか知ったのは大学生になってからである。そんな現状を変えるためにはこちら側が積極的に活動していく必要があると考える。具体的には、臨床検査技師が中学校や高校に赴き、仕事内容について説明し、さらに鏡検や模擬での採血、心電図の測定などを実際に行う。そうすることで少しでも臨床検査技師について興味を持ってもらえるのではないかと思う。筑豊地区はその他の地区と比較して会員数が少ない。そのため、このような活動を積極的に行ってもっと多くの方々に知ってもらい、将来的には福岡を引っ張って行くような地区にしていきたい。

最後に、私自身、臨床検査の世界に入ってから半年も経っておらず、まだまだ未熟者ではあるが、これからの検査を担っていく若手として様々なことに挑戦し、多くの経験を積んでいきたい。また、開催される勉強会などには積極的に参加して知見を深めていき、技師会へ入っていることを意味のあるものにできるよう十分に活用していきたいと思う。そして、10年20年経った時、これまでの先輩方が残して下さった福臨技での活動をしっかりと受け継いで、臨床検査技師の世界をより良いものにしていけるように尽力していきたい。

私は、4月から時間外業務のトレーニングを始め、7月から実際に休日・夜勤業務を行っています。自分が所属している検査室以外の業務は慣れていないため、検査方法や結果の解釈が難しく感じ、悩むことも多々あります。また、国家試験から時間が経つにつれ、少しずつ内容が抜けてしまっている部分もあります。そんな中、今回の新人研修会に参加し、先輩技師のみなさまに、各分野の基礎的なことや臨床で重要なこととお話ししていただくことで、再度知識の復習や新たな知識の習得につながりました。

研修会を通して、臨床検査技師として働く上で検査値の推移と組み合わせから病態を読み解く力を身につける事が非常に重要だと感じました。私は現在、血液検査室に所属しており、血算・凝固検査を行っています。日々、多くの患者様の検査データを見ていく中で、示された結果が臨床の症状と本当にリンクしているのかを判断するのが難しいと感じています。大学の授業や国家試験の勉強ではあまり学ぶ機会がなかった薬剤や抗癌剤の影響についても、先輩に質問したり、自分自身で調べてみたりしながら少しずつ理解できるようになってきました。これまで学んできた知識を実際の検査値と結びつけるのはなかなか難しく、RCPC等を通して検査値の解釈や病態把握能力を高めていく必要があると思っています。今はまだ血液検査の結果から病態を読み解くトレーニングしている段階ですが、生化学や免疫等の検査値についても解釈できるようになって、より検査結果に信頼性を持たせられるようにしていきたいです。

日々進化し続けている医療の中において、向上心を持って自己研鑽を行うことは非常に重要だと感じています。研修会でもお話されていたとおり、知識や情報をアップデートしていくことがさらなる知識の向上やスキルアップに必要不可欠だと思います。そのためにも、今回のような院外の勉強会に参加することは非常に有効だと感じました。私自身、今まで今回の新人研修会の他に北九州地区の臨床血液部門勉強会、福岡県医学検査学会、メーカー主催の凝固研究会に参加させていただきました。実際にあった症例をもとに、データの見方や結果変動の要因についてお話ししていただくことで、日頃の業務中に生じる疑問を解消し、理解を深めることができました。現状に満足することなく、常に向上心を持って自己研鑽に励み、高い医療サービスを担う一員として成長し続けたいです。

最後になりましたが、今回の研修会を企画、運営してくださった関係者の皆様、講師の方々に心よりお礼申し上げます。これからもこのような研修会や勉強会に積極的に参加していきたいと思いますので、その際はご指導のほどよろしくお願いいたします。

7月18日（金）に開催された「令和7年度 筑後地区 新人・一般会員研修会」に参加致しました。私にとって初めての現地開催での研修会であり、他施設の技師の方々と共に学べたことは大変貴重な経験となりました。

一般検査部門では 下川 洋輝 技師による「初めての尿検査ガイド~尿沈渣検査 鏡検編」を拝聴し、弱拡大で細胞成分を見分ける重要性を学びました。私自身7月より一般検査部門の研修が始まり、正確且つ迅速にという緊張感の中、細胞成分の鑑別に対する不安がありました。しかし、今回の研修を通じて、細胞成分の鑑別ポイントや弱拡大での確認方法について理解を深めることができました。特に、鏡検時間を短縮しつつも異常細胞を見逃さないよう一検体ごとに進捗を調整する重要性を再認識することができました。

血液検査部門では 垂水 俊樹 技師による「血液検査の基礎 一検査値に影響するポイントを再確認しよう」を拝聴しました。結果の正確な解釈のためには単に数値を見るだけでなく、検査前・検査・検査後プロセス全体に目を向ける必要があると学びました。研修後、実際に赤血球凝集の見られる検体に遭遇し、スキッターや検査データで異常を感じ塗抹標本を観察した結果、凝集が確認されました。MCHC>37g/dLであったため、寒冷凝集を疑い加温したもののMCHCは加温前よりも上昇、カルテを確認すると温式抗体を持つ患者さんでした。異常データにあった際、焦りなどから次の手技にいち早く進もうとしてしまうため、まずは検体を観察、カルテや他の検査データを確認する、研修で話されていたように先輩方に積極的に聞くことを念頭に置いて行動していきたいと考えました。この実体験から日々の業務において結果に対し疑問を持ち、直ちに確認を行うことの大切さを痛感しました。また、異常を見逃すことなく正確な診断に結びつけるために、カルテや生化学部門の検査データ等、多くの情報を参考に総合的に解釈する力が求められることを実感しました。

輸血細胞治療部門では 高口 裕太 技師による「輸血検査の基礎」を拝聴しました。基本的には機械が凝集判定をしますが、分野を問わず言えることは機械が動作しなくなった場合、用手法で検査を行わなければいけないということです。輸血検査部門においては手技が患者様の生死に直結します。高口技師が話されていたように慣れないうちは自分の手技を疑い再検査することも重要であると再確認できました。この研修を通じて今後、細心の注意を払いながら、どのような状況でも冷静に業務をこなせる技術を身につけていく所存です。また、どの検査においても責任感を持って丁寧に迅速に対応していきたいと考えます。

研修会後の懇親会では他施設の同期とも交流することができました。毎日が新たな学びの連続で充実しているといった話をし、先輩方からは実践的な知識や現場での経験談を直接伺うことができ非常に勉強になりました。この研修で得た知識を元に今後はさらに自分の技術力を高め、どのような検査においても自信を持って対応できる臨床検査技師として成長していきたいと考えます。研修会を企画・運営してくださった筑後地区地区長の野田技師をはじめとする座長・講師の皆様に御礼申し上げます。この貴重な経験を今後の業務に活かし、さらなる成長を目指し業務に邁進して参ります。

この度は、私たち新人の為に研修会を開いてくださりありがとうございました。

研修会を通して、筑豊地区技師会の活動について詳しく知る事ができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

これまで、「技師会」という言葉は耳にしたことがあっても、その具体的な活動内容や意義については漠然とした理解しかありませんでした。しかし、今回の研修を通して勉強会や研修会の開催だけでなく、親睦会などの交流の場を設けることで技師同士が横のつながりを深めていることを知り、とても心強く感じました。普段の日常業務で他の病院の技師の方と交流する機会にはほとんどありませんが、このような場を通して気軽に相談しあえる関係性を築けることは、仕事を続けていく上で大きな支えになると思います。このような、交流を深めることのできる活動を積極的に行っていることに非常に魅力を感じました。

さらに、地域住民の方々に検査技師という職業を知って頂くための活動を行っていることも印象的でした。検査技師という仕事は、他の医療職と比較するとまだまだ知名度が高いとは言えません。技師会が地域のイベントに参加し、健康チェックや検査体験を通して住民の方々と交流を深めることで、検査技師について知ってもらい、より身近に感じて頂けるよう活動していることを知り、非常に素晴らしい取り組みだと感じました。医療従事者として地域に貢献する姿勢を学ぶと共に、私自身も将来このような活動に積極的に参加したいと思いました。技師会が、技師同士だけでなく地域住民とのつながり、といった面でも大きな役割を果たしていることを理解し、活動意義を改めて実感しました。

また、最後の講義では今まで経験のなかった RCPC を用いたトレーニングを行う事ができ、とても新鮮で勉強になりました。検査データを注意深く読み解くことで、臨床像にかなり近づくことができることに驚きました。このトレーニングを活用して夜勤業務の緊急検査データの判断をより正確に行えるよう、これから活かしていきたいと思います。

今回の研修は、筑豊地域技師会の一員としてどのように活動していくべきか、視野を広げるきっかけになったと思います。

今日得た学びを忘れず、これから臨床検査技師としてより深い知識を身に着けると共に、地域の方々の健康を守る事が出来るよう日々精進していきます。

編集後記

広報・情報管理部 大串 篤利

幾分か朝夕は過ごしやすくなってきたものの、日中はまだまだ暑い日が続いておりませんが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

早い梅雨明けと猛暑の影響か、「記録的短時間大雨情報」や「線状降水帯」ということばを例年よりも多く耳にし、全国各地で大雨災害や突風被害をもたらせています。また、秋冬にとどまらずコロナ・インフルエンザ感染は常に身近で発生しており、本当に大変な時代だなと感じております。気候に負けず、体調管理第一で乗り切っていきましょう。

皆様、今後も引き続き各地区で予定されております健康イベントや研修会への多くのご参加と技師会活動へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

